

助成事業完了報告書
日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月15日

事業ID:2024S00226
事業名:栃木県那須町における「子ども第三の居場所」包括ケアモデルの開設と運営と車両整備(1年目)
団体名:(一社)AppleBase
代表者名:磯 翔
TEL:080-5521-3948
事業完了日:2025年3月31日



■契約時	
事業費総額	: 62,810,000 円
自己負担額	: 90,000 円
助成金額	: 62,670,000 円

箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時		
事業費総額	: 63,080,450 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	: 410,450 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	: 62,670,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	: 0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1) 助成契約書記載の事業内容(予定)

1.栃木県那須町における「子ども第三の居場所」包括ケアモデルの開設
(1)物件現況:公共用施設(築32年)
(2)取得形態:建物 無償譲渡、土地 賃借
(3)工事内容:木工事、鋳造建具工事、内外装工事、左官タイル工事、塗装工事、電気設備工事、給排水衛生設備工事、住宅設備工事など
(4)施設名称:ApplePark
(5)面積:総面積約1,064m ²
(6)構造:木造
(7)施設概要:食事・交流・学習スペース、キッチン、お風呂、相談室など
(8)定員:40名

(2) 事業完了時の事業内容(実績)

1.栃木県那須町における「子ども第三の居場所」包括ケアモデルの開設
(1)物件現況:公共用施設(築32年)
(2)取得形態:建物 無償譲渡、土地 賃借
(3)工事内容:木工事、鋳造建具工事、内外装工事、左官タイル工事、塗装工事、電気設備工事、給排水衛生設備工事、住宅設備工事など
(4)施設名称:ApplePark
(5)面積:総面積約1,064m ²
(6)構造:木造
(7)施設概要:食事・交流・学習スペース、キッチン、お風呂、相談室など
(8)定員:40名



(3) 成功したこととその要因

建物が完成したことで、これまで以上に多くの人に参加活動を知ってもらえるようになった。広い空間でのびのびと過ごせるようになり、利用者一人ひとりが自分に合った過ごし方を見つけやすくなった。

(4) 失敗したこととその要因

急激な工事費用の上昇により、資材の調達や運営コストに対する予算が圧迫した。物価高騰や輸入の遅延も影響した。

(5) 事業内容詳細

建物が完成したことで、地域社会の活性化が進み施設に対する関心が高まった。近隣住民からの問い合わせや訪問が増え、施設は地域の新たな交流の場となった。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.栃木県那須町における「子ども第三の居場所」包括ケアモデルの運営
(1)期間:2024年4月1日～2025年3月31日(週6日、13時から21時まで開所)
(2)場所:栃木県那須町
(3)対象:35名(家庭や自身の課題を抱えた小学校低学年を中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相手を補完する。これまでの子ども支援のノウハウを活かし、保護者が安心できる拠点を作り児童が集まる環境を作り、非認知能力や生活力の向上、そしてその先の学力向上を目指すサポート体制を構築する。

(2)事業内容の実施(完了)状況

2.栃木県那須町における「子ども第三の居場所」包括ケアモデルの運営
(1)期間:2024年4月1日～2025年3月31日(週6日、13時から21時まで開所)
(2)場所:栃木県那須町
(3)対象:35名(家庭や自身の課題を抱えた小学校低学年を中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相手を補完した。これまでの子ども支援のノウハウを活かし、保護者が安心できる拠点を作り児童が集まる環境を作り、非認知能力や生活力の向上、そしてその先の学力向上を目指すサポート体制を構築した。

(3)成功したこととその要因

子どもとの1対1の時間を大切にして過ごしたことで関係性を構築することができ、児童の生活習慣や学ぶ意欲などに対しての支援、リーチできたと考える。

(4)失敗したこととその要因

情報共有が不足していたことで、支援の効率性が低下し、目指すべき成果に影響が出ることを痛感した。今後は密な連携を取り、より効果的な支援を行うための体制を強化していく必要があると考える。

(5)事業内容詳細

児童だけでなく、保護者が安心できる拠点作りを目指し、まずは児童、そして保護者との信頼関係の構築に時間を割きながら関係性を構築に努めた。また非認知能力の向上を目指し地域の方々を巻き込みながらイベントを実施を図った。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容 4

(1)契約時の事業内容

--

(2)事業内容の実施(完了)状況

--

(3)成功したこととその要因

--

(4)失敗したこととその要因

--

(5)事業内容詳細

--

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

【目標】

- 開設事業を実施
- ・2024年9月1日までに「子ども第三の居場所」包括ケアモデルを開設する。
- ・運営開始までに関係各所(自治体、学校、SSWなど)へ事業の説明会を実施する。
- ・地域を巻き込む支援制度や安定した寄付の醸成のため、サポート企業の拡充を行う (30企業・団体)。
- 運営事業を実施
- ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を 40名にする。
- ・児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援等の安定的提供のため、関連児童施設との合同研修を実施する(年6回)。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	376	文字数チェック	OK
【目標】 ■開設事業を実施 ・2024年9月1日までに「子ども第三の居場所」包括ケアモデルを開設する。 - 工事の影響で施設は10月末に完成した。 ・運営開始までに三関係各所(自治体、学校、SSWなど)へ事業の説明会を実施する。 →自治体への説明会を3回に分けて実施した。 ・地域を巻き込む支援制度や安定した寄付の醸成のため、サポート企業の拡充を行う(30企業・団体)。 →まずはこの施設を知ってもらうために見学会を実施した。 ■運営事業を実施 ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を40名にする。 →開所式を終えてから徐々に受け入れていき登録者が36名だが、一日平均利用児童数は10名。 ・児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援等の安定的提供のため、関連児童施設との合同研修を実施する(年6回)。 →関連児童施設との合同研修を1回実施した。			

3.事業実施によって得られた成果

2025年8月頃には登録児童数が70人を超えると見込まれる。 2025年9月には一般家庭児童と困窮家庭児童が9:1の割合になると見込まれる。 2026年4月には那須町や地域との連携、共同によって幅広い児童の受け入れ先と認知され、行政や関連施設との連携が実装され、より官民連携施設の連携が確立されると見込まれる。
--

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策 最も大きな課題は、保護者や家族が気軽に相談できる環境が整っていないことであった。利用者が自分の状況や要望を安心して伝えられず支援が適切に提供できない場面があった。また施設と地域の学校や福祉機関との連携が不十分で、支援の幅を広げるための情報共有が不十分であると感じた。 対応策としては、まず相談窓口を設け、保護者や家族が気軽に利用できる環境を整備すること。また、オンラインや電話での相談も受け付けるようにし、柔軟な対応ができる体制を構築していくことも検討が必要。さらに、地域の学校や福祉機関と定期的に情報交換を行うことで、支援を必要とする人々に対して迅速で効果的な対応ができるように整えていく必要がある。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称	(2)事業完了時の成果物名称
・活動報告書 ・建築物(写真等) ・車両(写真等)	・活動報告書 ・建築物(写真等) ・車両(写真等)

--	--

(3) 未作成となった要因

--

(4) 成果物を登録したウェブサイトの URL

<https://fields.canpan.info/report/detail/31781>
<https://fields.canpan.info/report/detail/31620>
<https://fields.canpan.info/report/detail/32545>

--